



4/2 Hirado City Photo News
耕作放棄地を有効活用



平戸まちづくり運営協議会が、平戸市内の耕作放棄地を活用し、農業を行ってみたい市民や移住者を対象に農地を貸し出す、「平戸市民菜園」を戸石川町に開園しました。

開園式で平戸まちづくり運営協議会の谷田美幸会長は「利用する人に栽培や収穫の喜びを感じてもらい、共同作業による農家とのふれあいや生きがいに繋げてほしい」と挨拶。菜園は1区画約30㎡で25区画整備。年間使用料6,000円で借りることができます。

3/31 Hirado City Photo News
南部地区の児童の遊び場に



辻町の小嶋こども園横に整備された、南部地区放課後児童健全育成施設の開所式が行われました。この施設は、授業終了後や休業期に子どもたちに遊び場や生活の場を設け、児童の健全育成・安全対策を目的としています。

開所式後の内覧会では、津吉小学校などの児童らが、実際に机に座り、宿題や読書をする姿が見られました。テープカットをした津吉小学校2年の山下航宙さんは「明日からここでいっぱい遊びたい」とお気に入りの様子でした。

3/24 Hirado City Photo News
ヤブツバキの保存のために



たびら昆虫自然園において、解説指導員の会や田平まちづくり協議会などの関係団体が連携し、市の花木であるヤブツバキの苗木50本の植え付けが行われました。苗木を提供した地元の園芸愛好会である向花樹会の森喜一郎さんは、「将来、ここが平戸に自生するヤブツバキの保存園になれば幸い」と笑顔で話していました。

また、現地には北松農業高校で育てられたミスリーローズが植えられ、さまざまな植物を鑑賞することができます。

3/24 Hirado City Photo News
生月地区の新たな防災拠点に



平戸市消防署生月出張所の新庁舎落成式が行われ、関係者ら約40人が出席しました。

1975年度に開設された旧庁舎は老朽化が進み、耐震基準を満たしていなかったため、隣接地に新庁舎を建設。完成した新庁舎には個室の仮眠室や会議室のほか、市内の出張所では初めて訓練塔が併設されました。

落成式終了後には、訓練塔で同出張所所属の消防署員が火災現場で逃げ遅れた住民の救出を想定した訓練を披露しました。

4/13 Hirado City Photo News
小・中学部が新設



田平中学校体育館で佐世保特別支援学校北松分校の開校式および入学式が行われ、児童・生徒やその保護者など60人が出席しました。

高等部は北松農業高校に設置されていましたが、今年度から新たに小・中学部が田平中学校内に新設。高等部に6人、中学部に1人、小学部に2人が入学しました。

入学式の高等部新入生宣誓で、小島尋乃ひろのさんは「規則に従い学習や運動に励むことを誓います」と宣誓しました。

4/5 Hirado City Photo News
茶の伝来の地を守る



木引町の千光寺の茶園「富春園」において、県北地域の茶の生産者でつくる「ながさきグリ茶研究会」の会員や関係機関の職員ら約10人が茶の木の剪定、施肥、清掃活動を行いました。この活動は、一番茶の控えるこの時期に行われています。

富春園は臨済宗の開祖栄西が宋(中国)から持ち帰った茶の種をまいたとされ、日本の喫茶文化発祥の地と言われています。研究会会長の賀持はつもちさんは「日本の茶のルーツなので、感謝の気持ちで毎年作業している」と話しました。

3/24 Hirado City Photo News
一本桜が闇夜に浮かぶ



木ヶ津町にある慈眼桜がライトアップされました。慈眼桜は、慈眼岳をのぞむ丘にあり、樹齢約140年で高さ約10メートル、幹回り約3メートル、枝幅約20メートルの一本桜です。伊豆大島に多いオオシマザクラに近い品種で、市の文化財(天然記念物)に指定されています。

ライトアップ期間中は、地元住民による野菜やお菓子、郷土料理の販売なども行われていました。日中も、平戸の春を象徴する桜を見ようと多くの観光客が訪れていました。

3/25 Hirado City Photo News
国際医療人の育成を目指して



長崎大学と平戸市は、海外で活動する医師などを育成する「国境を越えた地域医療支援事業」の連携協定を締結しました。

この連携協定は、国境を越えて活躍できる国際地域医療人を育成し、平戸市民病院を拠点に展開することで、平戸市の課題である医師の確保、地域医療の向上と長崎大学が目指す世界の健康、医療格差の是正を図るものです。医師は、国内滞在時に平戸市民病院で診療を行うこととなり、医師をはじめとした医療人の確保につなげます。